

戦後最長政権の未公開官邸資料

オンライン版

楠田實資料

(佐藤栄作官邸文書)

編集：和田純 神田外語大学教授



佐藤首相と楠田首席秘書官
(於官邸玄関)

戦後最長の佐藤栄作政権（在任期間：1964～1972）を支えた首席秘書官楠田實（1924～2003）が残した、未公開官邸資料。外交から内政まで第一級の極秘資料で構成される、事実上の「佐藤栄作文書」。

四千点を超える一大コレクションであり、今後戦後史を語るうえで不可欠な基本史料である。

楠田實資料について

神田外語大学教授 和田 純

1964年11月9日から1972年7月6日までの7年8ヶ月、延べ2,797日にわたる戦後史上で最長の政権となった佐藤栄作内閣。その総理秘書官を務めたのが楠田實である。

楠田は1924年に生まれ、少年戦車兵として従軍したあと早稲田大学へ進み、産経新聞で政治記者となって佐藤派を担当し、1967年3月1日に政治部次長を辞して総理秘書官に就任する。以来、佐藤退陣までの5年4ヶ月にわたって総理の首席秘書官を務めた。

本資料は、その楠田が2003年の逝去まで手元に残した数多くの資料のうち、佐藤政権関連の文書を整理してデジタル化し、初公開するものである。文書総数は約4,460件、約9万ページに及ぶ膨大なもので、質量ともに事実上の「佐藤栄作文書」と呼んでよい第一級の資料群である。

本資料は内容的に次のように大別できる。

(1) 「S オペレーション」とブレイン集団：「S」が佐藤を意味する通り、1963年12月から佐藤政権実現のために楠田を中心に水面下で活動した「忍者部隊」の活動が「S オペ」である。佐藤が政権についた後も継続し、楠田の秘書官就任後は水面下と水面上の両者からなるブレイン集団へと発展していった。ヴィジョンを磨き、政権を生み出し、政策を立案し、政治を創り出していったジャーナリスト、官僚、文化人らの献策の軌跡をたどることが可能で、長期政権が内在的なブレインを必須とし、その要として秘書官が機能したダイナミズムを跡づけられる重要かつ希有な資料群である。

(2) 演説・答弁

楠田が心血を注ぎ、後年になっても自負していたのは、すべての国会演説と主要演説を自ら書き下ろし、すべての国会答弁の最終とりまとめをしたことである。そうした総理発言の構想を練り、推敲を重ねていく各過程の膨大なメモや草稿と、佐藤が最終的に使用した完成原本が含まれ、楠田の苦闘の跡とともに、様々な人々の献策や総理自身による加筆の跡を追うことができる。例えば「核抜き本土並み」を打ち出す際の確執など、政治の機微をたどる上で基本となる資料群で、官庁が用意した多量の想定問答集とあわせて、今日以上に国会論戦や「言力」がインパクトをもった時代の政治を象徴するものである。

(3) 日記・メモ・手帳・執務日誌

官邸で管理されていた「総理日程」に加えて、楠田自身が残した手帳や執務日誌、大量のメモが一つの資料群となっている。メモは産経新聞記者時代（池田政権期）、S オペ時代、秘書官時代と継続しており、取材、面会、会合などの記録が生々しい。和田純編『楠田實日記』（中央公論新社、2001年）に未収録の日記も一部含めた。

(4) 外交資料

外交資料の中心はなんと言っても沖縄返還関連である。外務省と並行して官邸自らも返還交渉に深く関与した経緯が読み取れる資料群で、沖縄返還交渉を総体として把握し、冷戦下における安全保障を究明する上で不可欠な資料群である。加えて、ベトナム戦争、NPT、「非核三原則」、日米安保延長、繊維交渉といった山積する課題や、「ニクソン・ショック」となった米中国交回復、それに次ぐ日中国交正常化の難題などテーマは多岐にわたり、未公開文書、私的メモ、意見具申、草稿といった種々の資料が錯綜する激動期の記録としてきわめて興味深い。各国要人の会談録、米国大統領と交わした

親書原本、外務省の情勢分析資料、懇談会や有識者の見解なども幅広く含まれ、最大の資料群を形成している。

(5) 外遊資料

佐藤総理は2回の訪韓、訪台、2次にわたる東南アジア訪問に加えて、沖縄返還交渉のために訪米を重ね、ジョンソン大統領と2回、ニクソン大統領と3回の首脳会談を行った上、国連25周年の場でも演説し、さらに総理退任後にもニクソン再選就任式とジョンソン葬儀のために訪米している。こうした延べ11回にわたる外遊ごとに事前準備資料、発言要領、会談録、接遇記録、報道記録などがまとめて残されており、(4)を補完している。

(6) 内政資料

佐藤政権は、内政では、高度成長の歪みを乗り越えるべく「社会開発」を標榜した。住宅、物価、公害といった国民に直結する課題に取り組み、為替自由化という荒波にも遭遇したが、こうした内政・経済政策に関わる資料も多く残され、社会問題の解決を政府が主導する流れの定着が読み取れる。また、大学紛争からハイジャック事件まで世界を揺さぶった動乱にも直面しており、世界史上の転換点に日本も無縁でなかったことを想起させてくれる。のみならず、2度の総選挙と都知事選挙への対応、地方での「一日内閣」の開催、テレビ定例番組「総理と語る」の制作記録など、政府（官邸）と国民を繋ぐコミュニケーションを拡充しようとした軌跡も残され、「新聞記者は出ていけ」の一言で有名になった退任会見も含めて、政権とメディアの関わりもうかがい知れて興味深い。

(7) 「ノーベル平和賞」受賞関連

佐藤は1974年にノーベル平和賞を受賞するが、その際の記念講演を執筆したのも楠田で、文化人と共同起草した経緯や、佐藤との摺り合わせで「非核三原則」への言及がトーンダウンした経緯などをたどることができる。

(8) 楠田執筆の刊行物

楠田という人物を知る上で欠かせない私家版の自叙伝『但盡凡心』、楠田が後年に佐藤内閣の思い出や位置づけを記した非商業出版の寄稿や講演録なども収録している。

政権が機能し、政治が大きな力を発揮するには、官邸こそがその中枢であることに疑いはない。しかし、官邸での営為の記録がまとまった資料群として公開されたことはこれまでになく、その実態は不明なままであった。その意味では、本資料の公開は先例のないもので、官邸の機能とダイナミズムを究明し、総理秘書官の役割を跡づける上で、現下では唯一無二のきわめて貴重なものだと言ってよい。

また当然、佐藤政権そのものを研究する上でも本資料は不可欠である。政権の命運を賭けた沖縄返還、不発に終わった日中国交正常化、有能な官僚や若手学者を起用したブレイン政治など追うべきテーマは多彩である。のみならず、左右対立の激動で問われた国民統合の課題、1970年代を見据えた時代認識と展望、「平和国家日本」の路線を集大成し「戦後レジーム」の集約点を築いたことの位置づけなど、切り口は豊富である。

政治というものの深層を探り、政権というものを当事者側から究明し、世界史の中に日本を跡付けうるものとして、本資料はまさに類例のない「宝庫」である。

詳細な備考・注を付した精緻な目録により、横断的な検索が可能に

検索画面

オンライントク
楠田實資料 (佐藤榮作官邸文書)

検索 分類一覧 解説

キーワード

表示件数 100件

作成年

分類 大分類を選択してください 小分類を選択してください

パート 第一部 第二部

検索

検索結果

件名: 沖縄返還交渉のスケジュールと概要 (外務省千歳北米一課長の案) PDF

件名: [スロープス上層部職員報告書] PDF

件名: ジョージタウン大蔵省駐米事務所 [沖縄問題] PDF

件名: [米朝共同声明] オランダ共同声明 [ロサンゼルス共同声明] PDF

件名: [沖縄 内地は早や桃花の季節と存じます] PDF

件名: 下田書翰 (昭和・三・七) PDF

件名: 千歳北米課長沖繩返還報告書 PDF

件名: 沖繩返還と二国間交渉の進展 (在米大使館報告) PDF

件名: 沖縄の返還交渉準備に関する外務省北米課長と沖縄事務所長との非公式意見交換 PDF

件名: [米朝共同声明] オランダ共同声明 [対米関係] PDF

件名: 千歳北米課長駐米報告書 (44.4.1) PDF

件名: 返還交渉大筋のワラント文書 PDF

件名: 千歳北米課長駐米報告書 (44.6.15) PDF

件名: 日本郵船定期船について PDF

資料詳細

資料番号: 楠田実資料 F-2-91

資料名: [拝啓 内地は早や桃花の季節と存じます]...

作成者: 下田龍平大佐

現所: 佐藤館蔵

作成年月日: 1969年3月7日

パート: 第一節

大分類: 外交(日米・沖縄返還・安全保障)

小分類: 日米関係・沖縄返還・地理文書ほか

資料名: 「沖縄返還1」

形態: 複製ペーパー

数量: 2

備考: 下田龍平大佐から佐藤栄作の私書。「本土返還を原則とした上で段階的プロセスアルファで解決することは十分に可能なるべく...」

備考者: 下田龍平大佐のファイルには添じ込まれず、後から添付された複製。添付書も他複製が施されていることになったと推定され、複製の順序が異なる可能性がある。複製は複製元の複製と異なる可能性がある。複製は、複製元の複製と異なる可能性がある。

備考: 複製は「日米関係・沖縄返還・安全保障」と「日中関係」関連の複製も複製元の複製と異なる可能性がある。このうち「日米関係・沖縄返還・安全保障」関係は、複製元の複製の複製と異なる可能性がある。複製は、複製元の複製と異なる可能性がある。

[拝啓 内地は早や桃花の季節と存じます...] (昭和44年3月7日、佐藤総理宛 下田書翰)

気鋭の研究者による充実した解題

- | | | |
|---------|----------------|-------|
| 第 I 節 | 「楠田實資料」の背景と全体像 | 和田 純 |
| 第 II 節 | S オペレーションと総理官邸 | 村井 哲也 |
| 第 III 節 | 国内政策 | 村井 良太 |
| 第 IV 節 | 沖縄返還・日米関係 | 中島 琢磨 |
| 第 V 節 | 日中関係 | 井上 正也 |



「楠田實資料」と沖縄返還——官邸主導外交の実像

法政大学名誉教授 河野 康子

従来、沖縄返還は官邸主導によるところが大きいとされてきたが、その実態は必ずしも明らかではなかった。このたび公開された「楠田實資料」には佐藤外交の中心課題であった沖縄返還交渉に関する文書が多く含まれている。「楠田實資料」が示唆するのは沖縄返還をめぐる官邸主導外交の実像であろう。

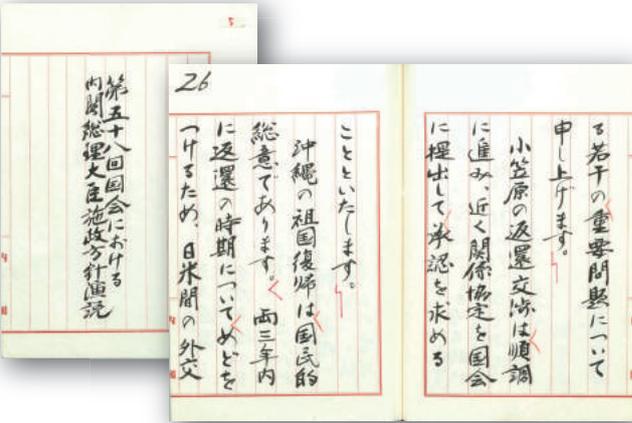
佐藤内閣期の官邸主導は官僚排除ではなく、むしろ外務省との連携を図りつつ首相の意向を交渉に反映させる機能を果たそうとしたことが窺われる。「楠田實資料」には、千葉一夫アメリカ局北米課(後に北米一課)長をはじめと条約局、東南アジア局、国際情報部等から官邸に届けられた報告書、メモ類が含まれている。千葉課長は官邸に出向中の小杉照夫総理秘書官と同期であった関係から交渉の機微を官邸に伝え、外務省との緊密な関係構築に貢献した。佐藤ニクソン共同声明の作成に際してはベトナム戦争終結の見通しをめぐり日米の合意形成が難航したが東南ア

ジア課からの情報は佐藤政権の政策判断にとって不可欠なものとなったはずである。非核三原則とアメリカの核抑止力との関連については国際資料部調査課からの分析も伝えられていた。事前協議制度の運用をめぐる交渉が難航するなか佐藤首相が自ら掲げた非核三原則について疑問を持ち始めたことは周知であるが、その背景に外務省による分析・提言があったことも考えられよう。

「楠田實資料」からは沖縄返還交渉の機微について、官邸が政治の果たすべき役割を模索しつつ政官関係の構築に取り組む姿が窺われる。加えて日米京都会議、沖縄基地問題研究会などが提起した沖縄構想が明らかになったことも今後の研究進展に貢献することが期待される。既に公開された『楠田實日記』、『佐藤榮作日記』と併せて読むことにより、「楠田實資料」は1960年代から1970年代までの外交と内政について更なる新たな分析視角を提供することであろう。

高度成長期日本の政治の実像に迫る、一級の未公開資料群

総理演説・国会答弁



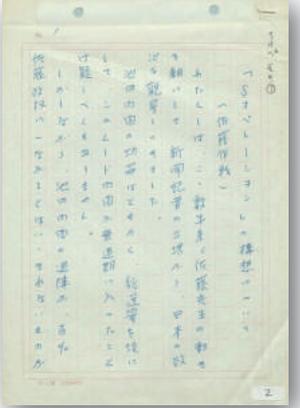
「第58回国会施政方針演説」（総理演説手元原本）

非核三原則



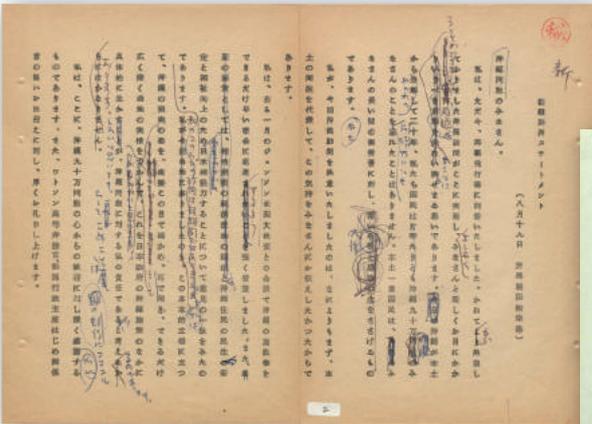
「三月二日の衆予における松本委員に…」
（高辻内閣法制局長官、沖縄の核と非核三原則の兼ね合いについての答弁案）

Sオペレーション

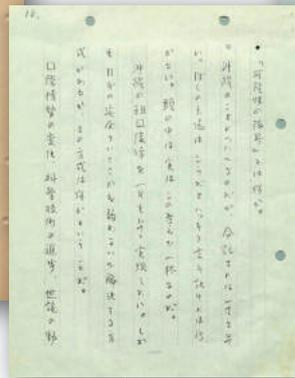


「Sオペレーション」の構想について」
（楠田眞の佐藤宛提言）

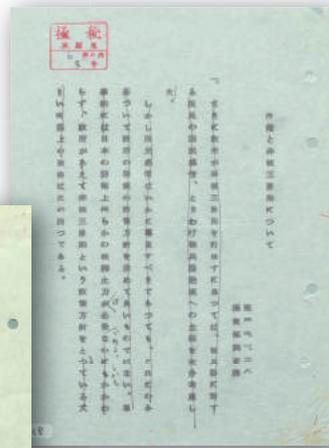
沖縄返還



「総理訪沖ステートメント」（八月十九日 於那覇国際空港）

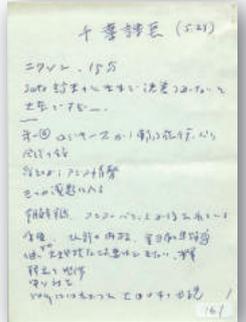


「ハリリー・F・カーンとの会談録」



「沖繩と非核三原則について」
（昭和44年1月28日、国際部調査課）

楠田メモ



「千葉課長」
（千葉北米一課長との打合せ）

佐藤政権の「ブレイン政治」を映し出す一級の官邸資料

東京大学教授 牧原 出

「アメリカの NSC と一緒やな」と国際政治学者の高坂正堯は言う。何とも臨場感あふれる京都弁だ。「座談会 シビリアンコントロールについて」と題した資料の一節で、四次防策定の最終段階の頃。この内輪の座談会に登場するのは、官邸スタッフ以外に、政治学者の京極純一に加えて、今でこそ「護憲派」の憲法学者として知られる芦部信喜。互いに気心の知れた雰囲気の中、防衛問題を議論する。ここまで同時代の知識人を巻き込んでいたのかと改めて思われる。

政権発足前の「Sオペレーション議事録」も同様で、メモに当時の反体制派の有力知識人の名前が並んでいる。「社会開発」が名目以上に福祉国家路線を包みこもうとしていたことに改めて気付かされる。ハト派として知られた宮澤喜一もまた、佐藤派と対抗していた池田派ながらこのSオペに加わる。「一、宮澤喜一氏の件について…」と題されたメモでは、「宮澤氏は総理の知遇に感激しており」という宮澤の率直な感想の後、「宮澤氏を直ちに政策ブレインとして売り出すかどうか」

を今後検討していこう、とある。政権発足後の初々しさが見事に伝わってくる。1966年1月28日の総理大臣施政方針演説に向けて開かれた「勉強会速記録」ともなると、200頁を超える長大な記録だ。橋本登美三郎官房長官の議事進行で、秘書官や各省代表の官僚たちが談論風発。「若い者が聞いても、ちっともおもしろくない」というのではいけないという意見から、演説では青少年向けのメッセージが発せられている。橋本自身は、総理は「一歩先」の抱負を述べるべきであり、「それでくじれば、総理はやめたらいいんだよ」とまで言い切る。自在なやりとりこそ、長期政権の基礎固めであった。大学問題では、衛藤瀆吉、高坂正堯、山崎正和など若手の大学人が次々と意見具申を行っている。

政策立案のために、最大限に知性を動員しようとしていたのが当時の官邸だった。知性と権力が交錯する様子を如実に映し出す資料集である。

政治の内部構造を伝える高水準の文書館

熊本県立大学理事長 五百旗頭 真

米国の豊富な公文書にもとづいて研究する楽しさを私が知ったのは1970年代のことであり、まずワシントンDCの国立公文書館に入り浸った。その後、歴代大統領の記念図書館を全米各地に訪ね、その政権のすべての関連資料が一堂に集っている便利さ、効率のよさを堪能することになった。

遺憾なことに、日本には首相図書館が存在しない。短命の政権はともかく、たとえば2年以上、せめて4年以上国政を担った首相については、記念図書館の設立を制度化すべきではないか。

それがかなわない中、実はこの楠田資料は、7年8ヶ月という戦後日本最長を記録した佐藤栄作政権についての信じ難いほど高水準の文書館を成している。

佐藤番記者であった楠田實は、武骨だが真面目な政治家佐藤に成長の伸びしろを感じ、立派な政治指導者に改造することを夢見た。楠田は自民党総裁選挙に立候補する佐藤の政策綱領づくりのため「Sオペ」を結成し、佐藤政権成立後は首席秘書官となり、米国ケネディ政権のブレーン政治をモデルに、社会の英知を集める新しいタイプの政府の構築を試みる。沖縄返還をはじめ佐藤政権のすべての重要な政策と演説は、楠田の手を通してつくられた。驚くべき丹念さで、そのプロセスすべての記録を楠田は残し、それは楠田本人と遺族によって編者和田純に託された。ここにわれわれはその恩恵に浴すことができる。佐藤政権の重要な事跡の製造過程をつぶさに見ることができ、戦後史のどの政権にも不可能なほどの精密さをもって政治の内部構造を知ることができるのである。

Crucial material pertaining to the workings of the Sato government

Akira Iriye, Professor Emeritus, Harvard University
ハーバード大学名誉教授 入江 昭

Here is an invaluable collection, made available to the public for the first time ever, of an enormous amount of writings by Kusuda Minoru, secretary and advisor to Prime Minister Sato Eisaku, the longest-serving prime minister of postwar Japan (1964-1972).

Kusuda, a political reporter for the Sankei newspaper, left his post to work for Sato as his principal secretary during 1967-1972. He drafted virtually all major speeches that Sato gave in the Diet (Japan's Parliament), took notes at the meetings the prime minister attended, compiled material for his use as he prepared for diplomatic conferences (including

the Oslo gathering in 1974 where Sato was awarded the Nobel Peace Prize), and sought to facilitate communication between the politician and the public. In addition, the collection contains unpublished governmental documents in Kusuda's possession that have never been published. For instance, there is an enormous amount of documents pertaining to Japan-U.S. security relations, in particular the presence of U.S. military forces on the island of Okinawa.

Altogether, the documents provide crucial material pertaining to the workings of the Sato government.

オンライン版 楠田實資料（佐藤栄作官邸文書）

編集：和田純（神田外語大学教授）

解題：和田純、村井哲也（明治大学兼任講師）、村井良太（駒澤大学教授）、
井上正也（成蹊大学教授）、中島琢磨（龍谷大学准教授）

編集協力：宮川徹志（NHK チーフ・ディレクター）

セット特価 ￥800,000（税別）

URL: <http://j-dac.jp/KUSUDA/index.html>

プラットフォーム：J-DAC ジャパン デジタル アーカイブズ センター

完全買切型（ご購入後のプラットフォーム利用料、年間維持費用は不要です）

<1ヶ月の無料トライアル受付中、お申し込みは archives@maruzen.co.jp まで>

内 容 構 成

第一部

分売価格 ￥450,000（税別）

- | | | |
|-----------------------|----------------------|----------------------|
| A 総理演説・挨拶 | D 日米首脳親書 | F 外交（日米・沖縄返還・安全保障） |
| A-1 総理演説・挨拶（手元原本） | D-1 佐藤総理・ジョンソン大統領 | F-1 日米関係・沖縄返還・繊維交渉ほか |
| A-2 総理演説集・発言録 | D-2 佐藤総理・ニクソン大統領 | F-2 安全保障・沖縄返還・核・軍縮ほか |
| B 総理国会答弁 | E Sオペレーション | G 外交（日中・米中ソ） |
| B-1 総理国会答弁案（手元原本） | E-1 会合記録・佐藤への提言・各種資料 | G-1 日中関係 |
| C 国会想定問答 | E-2 提言推敲記録・各種資料（簿冊） | G-2 中ソ・米中ソ関係 |
| C-1 国会答弁想定問答（冊子本） | | G-3 日中関係（刊行物） |
| C-2 国会答弁想定問答（テーマ別・課別） | | |

第二部

分売価格 ￥450,000（税別）

- | | | |
|--|---|-----------------|
| H 外交・内政（有識者意見） | J-6 第2次東南アジア・大洋州訪問 インドネシア・豪州・NZ・フィリピン・南ベトナム | K-6 大学問題 |
| H-1 国際関係懇談会会議録 | J-7 米国訪問 第2回佐藤・ジョンソン会談 | K-7 総理退任会見 |
| H-2 有識者の見解 | J-8 米国訪問 第1回佐藤・ニクソン会談 | K-8 よど号ハイジャック事件 |
| I 外交（全般） | J-9 米国訪問 国連25周年記念総会+第2回佐藤・ニクソン会談 | K-9 その他の内政関連 |
| I-1 外交資料各種 | J-10 韓国訪問 朴大統領就任式 | L ノーベル平和賞 |
| I-2 海外要人の総理との会見録 | J-11 米国訪問 第3回佐藤・ニクソン会談（サンクレメンテ） | L-1 授賞記念講演ほか |
| I-3 『国際情勢資料』（外務省） | J-12 米国訪問 ニクソン大統領再選就任式・ジョンソン前大統領葬儀 | M 総理日程 |
| I-4 『国際情勢』『マスコミ論調資料』（内閣調査室ほか） | | M-1 日程簿 |
| J 外交（総理外遊） | K 内政 | Y 楠田記録 |
| J-1 総理海外訪問公式記録（刊行物） | K-1 国会演説関連 | Y-1 日記 |
| J-2 米国訪問 第1回佐藤・ジョンソン会談 | K-2 「一日内閣」 | Y-2 手帳 |
| J-3 韓国訪問 日米韓台四国会談 | K-3 テレビ番組「総理と語る」 | Y-3 メモ帳 |
| J-4 台湾訪問 佐藤・蔣会談 | K-4 総理発言・会見等 | Y-4 自叙伝・寄稿・講演録 |
| J-5 第1次東南アジア訪問 ビルマ・マレーシア・シンガポール・タイ・ラオス | K-5 政治課題・政策検討資料 | |